

分娩第一期における助産ケアに関する満足度

北3病棟 国田智美 竹田敦子 田澤沙織 才門尚美 小堤あゆみ

(キーワード) 産婦・分娩第一期のケア・満足

【目的】

当科では年間約 700 件(うち経膈分娩約 400 件)の分娩があり、母体搬送の受け入れも行っている。そのため緊急入院や分娩が重なることが多く、産婦が満足できるケアの提供ができていないのではないかと感じた。そこで分娩第一期のケアの現状を把握し、ケアを見直すために本研究を行った。

【方法】

平成 18 年 6 月～7 月に、正期産で経膈分娩した褥婦を対象にアンケートを実施した。満足度は「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」の 4 段階のいずれかで答えてもらった。アンケートは 68 部配布、44 部を回収し回収率は 65%であった。得られた回答は「満足」「やや満足」を満足群、「やや不満」「不満」を不満足群に分類した。データの分析には Microsoft Excel を使用した。

【結果】分娩第一期の振り返りでは、満足群が 72.2%、不満足群が 27.8%であった。助産師の対応では、不満足群で「そばについてくれた」「家族と過ごせる配慮」(ともに 55.6%)、満足群では「楽な体位の工夫」(23.1%)、「腰をさすってくれた」(20.8%)の項目において不満とする回答が多かった。助産師にやってもらいたかったことで多かった項目は、不満足群では「家族と過ごせる配慮」(70.0%)、「お産の進行状況の説明」(50.0%)であり、満足群では「家族と過ごせる配慮」(29.2%)、「お産の進行状況の説明」(20.8%)、「家族へのお産の進行状況の説明」(20.8%)であった。

【考察】

分娩第一期における助産師のケアに関する満足度で不満足の方は 27.8%おり、「そばについてくれた」「家族と過ごせる配慮」が満足群に比べて多かった。これらは助産師にやってほしかったことで最も多い回答であることから、産婦の希望する人と一緒に過ごせるような配慮が大切であると考えられる。助産師の対応で「お産の進行状況の説明」「家族へのお産の進行状況の説明」に不満と答えたのは不満足群で前者 50.0%、後者 62.5%、満足群で前者 8.0%、後者 3.8%であった。これらの項目は助産師にやってもらいたかったことにおいても満足群、不満足群ともに多く、本人および家族への説明が重要であることがわかった。